

小学生を対象とした 地域の歴史文化を学ぶ活動による 歴史的建造物の活用に関する研究

ー須坂市旧小田切家住宅を対象とした検討ー

信州大学教育学部
家庭科教育コース
宮田莉那

< 発表の内容 >

1. 研究の背景・目的
2. 研究概要
3. 結果・考察
4. まとめ

1 研究の背景

文化庁

文化財活用・理解促進戦略プログラム2020

→文化財を貴重な地域・観光資源として活用するために2020年までに取り組むアクションプログラム

歴史的建造物の活用促進

分かりやすい解説と多言語対応

文化財修理・整備の拡充と美装化

観光拠点の整備



どの文化財が対象か、国が行うのか地域が行うのか具体的に明記されていない。

1 研究の背景

地域の文化財は、地域が先頭に立って利活用していく必要がある。



現状

過疎化による人手不足、後継者の高齢化などの影響で、文化財の存続は困難になりつつある。

今後

- ・地域の未来を担う若者や、子ども達が文化財を守っていく必要。
- ・文化財の新たな活用法を見いだす必要。

2 研究の目的

未来への文化財の存続を目指し、子ども達がもっと地域の文化財に親しむことができる機会や活用法が必要。

子どもが地域の歴史文化に興味・関心を持つことができる活動や学び方の検討

子どもと地域の文化財を結ぶ活用法の検討

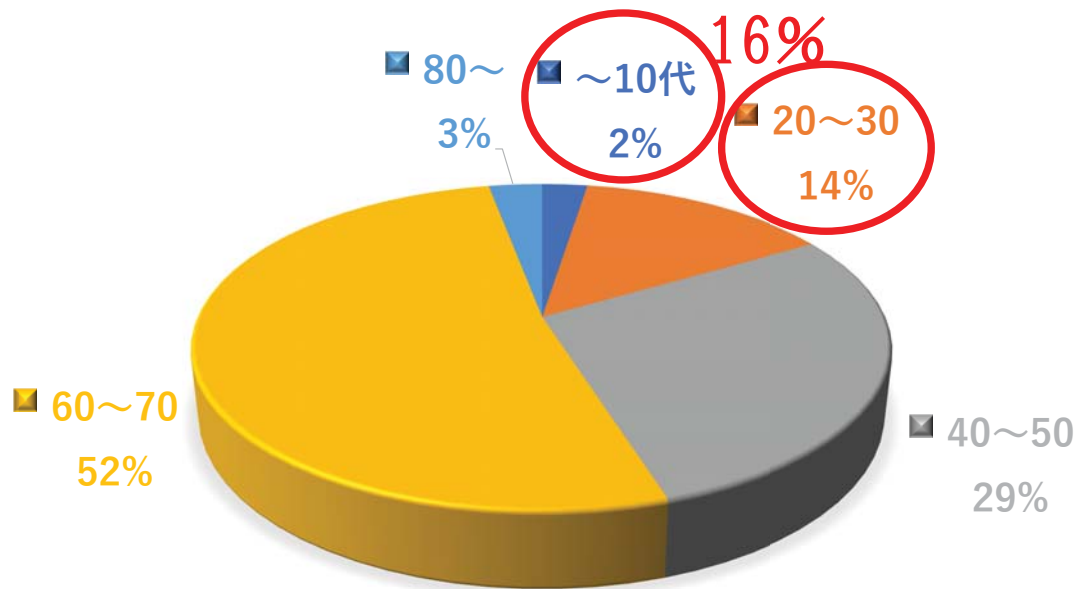
対象：須坂市旧小田切家住宅



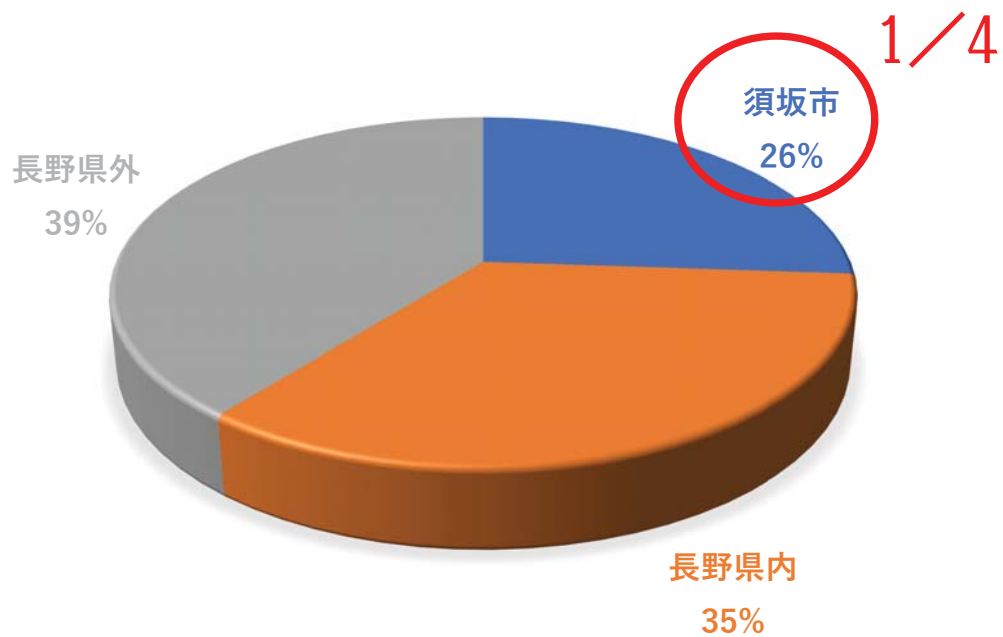
須坂市旧小田切家住宅HP：www.culture-suzaka.or.jp/otagiri/index.html

須坂市指定有形文化財、長野県宝に登録

平成29年度 須坂市旧小田切家住宅来館者
年齢別内訳



平成29年度 須坂市旧小田切家住宅来館者
居住地別内訳



1 研究計画

歴史文化についての
興味関心を高める

歴史文化についての
知識・理解の深まり



- ・ 体験的な活動を行う
- ・ 楽しみながら学べる
- ・ 知識の定着を図る

楽しみながら学べる

1. 組子体験

2. ミツケ！昔の家のひみつ

3. 昔の家の真実

体験的な
活動を行う
知識の定着
を図る

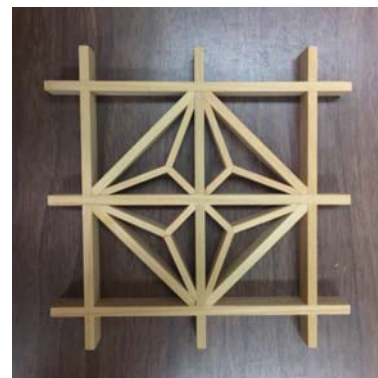
1 研究計画

1. 組子体験：

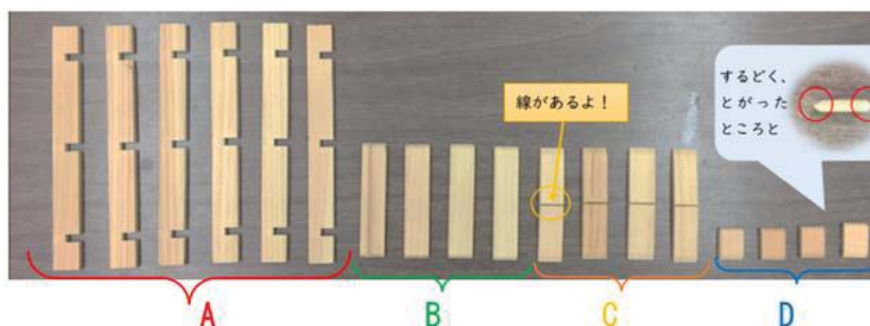
小田切家の建具に使われている「組子」という日本の伝統技法を、“組子のコースター”を作ることによって体験する。

<期待される効果>

- ・日本の伝統技法への興味・関心や理解を深めることができる。
- ・組子の職人さんや伝統に対して尊重する態度を身につけることができる。



組子の 作り方



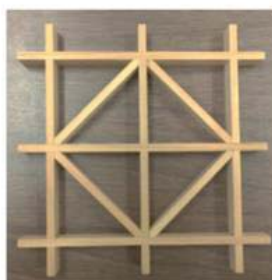
①Aの木を組んでいくよ！



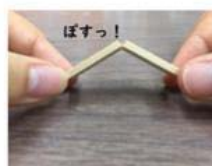
へこんでいる
所同士を合わ
せるよ。



②Bの木を図のように組もう！



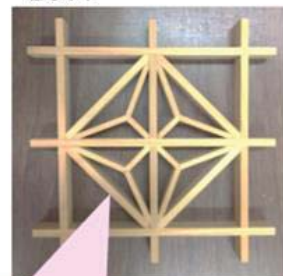
③折らずに折る！Cの木を「ぼすっ！」と音がするまで折り曲げよう！



ゆ〜っくりだよ〜



④C、Dの木を下の図のように組もう！



Dの木のとがったところと、Cの木を合わせるよ！



1 研究計画

2. ミツケ！昔の家のひみつ：

小田切家の中にある様々なものを探す活動

<期待される効果>

- ・「探す」→「発見」の活動で子どもの探究心を呼び起こし楽しんで活動できる。
- ・お題に示されているもの以外にも様々なものが目に触れることとなるため、昔の家（旧小田切家住宅）に対して興味・関心が生まれる。





桃の瓦



タラヨウの葉

1 研究計画

3. 昔の家の真実：ミッケ！昔の家のひみつで見つけたものや、須坂市、旧小田切家住宅の歴史などをパワーポイントを用いて、クイズなどを取り入れながら解説する。

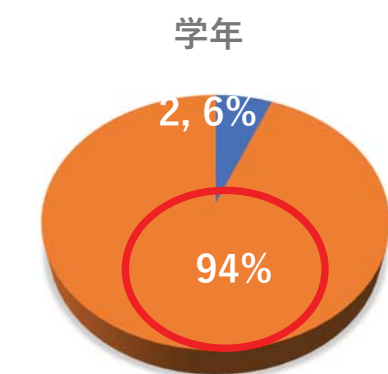
<期待される効果>

- ・子ども達がミッケ！で抱いた疑問を解決し、新たな発見を生むことで、感情の高まりを呼び起こす。
- ・地域に関する理解促進、知識の定着

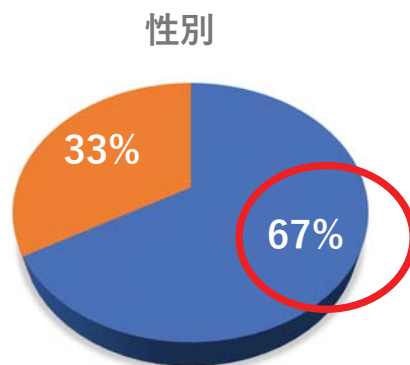


2 研究方法

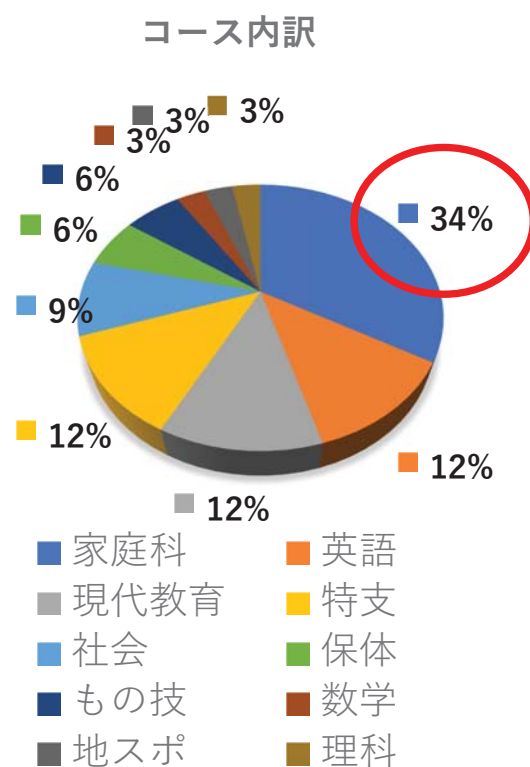
1. 信州大学教育学部の学生33人に検討した活動を体験する
2. 2種類のアンケートに回答する
 - (1)アンケート 1：活動そのものや小田切家に対する評価
 - (2)アンケート 2：学習指導要領の内容と照らし合わせた、教育的な観点からの評価
3. 須坂市の小学校に通う子ども達（4人）が、検討した内容をパイロットスタディーとして体験する



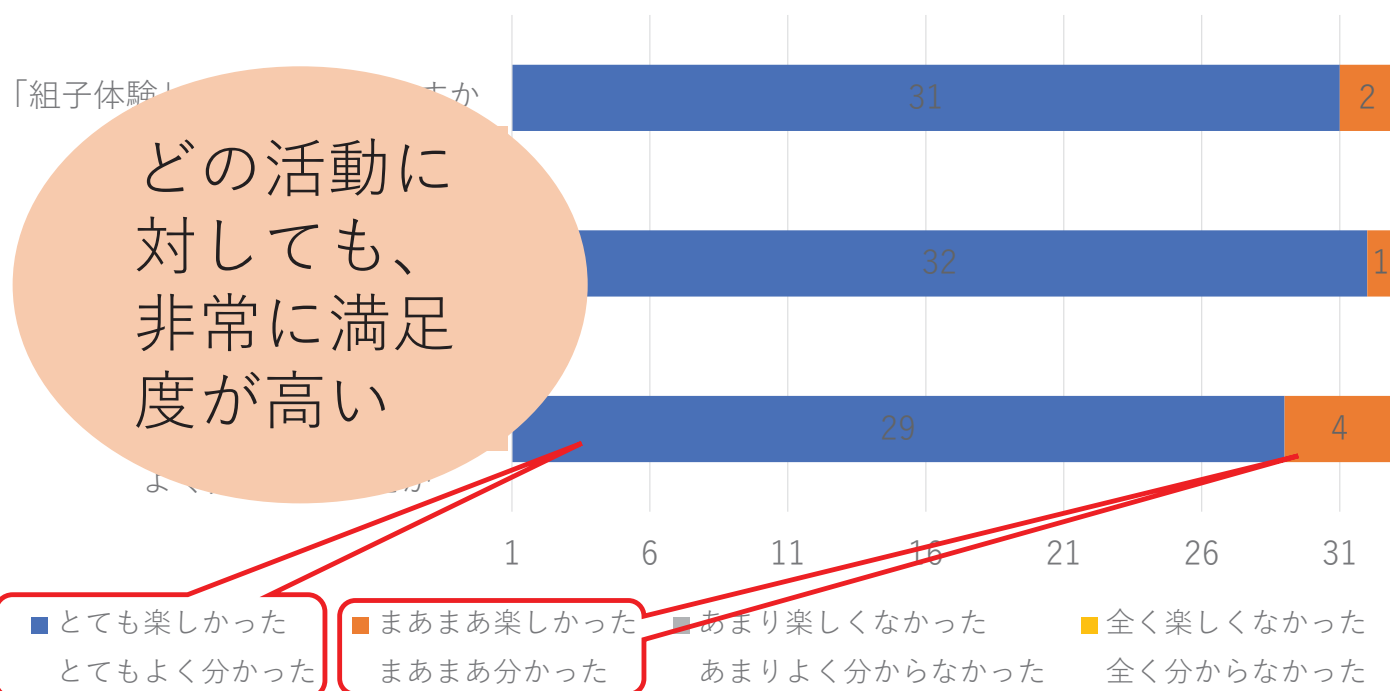
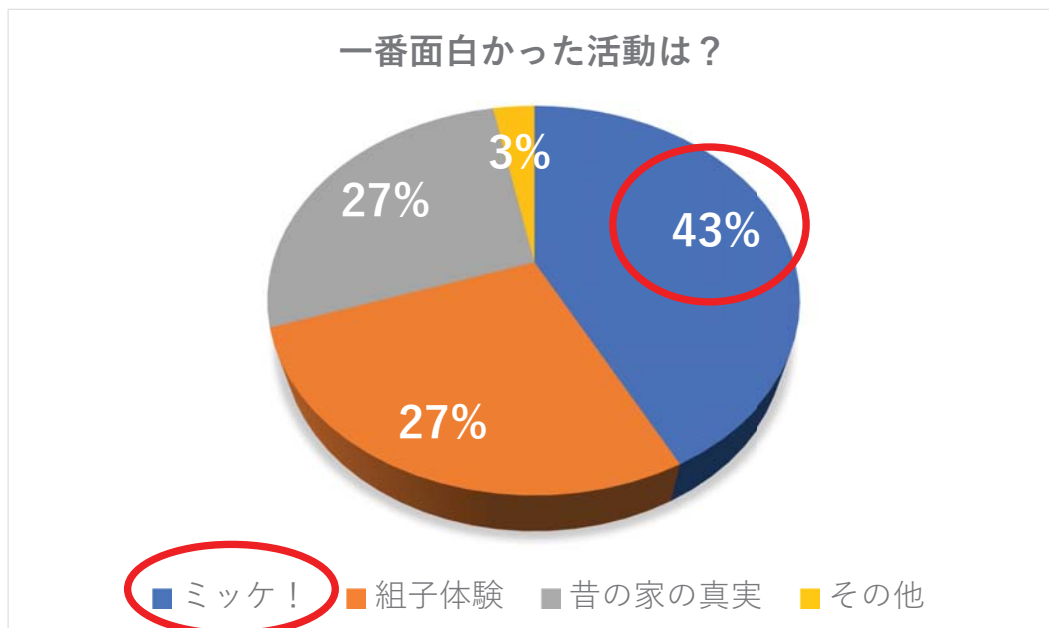
■ 2年次生 ■ 4年次生



■ 女性 ■ 男性



■ 家庭科 ■ 英語
■ 現代教育 ■ 特支
■ 社会 ■ 保体
■ もの技 ■ 数学
■ 地スポ ■ 理科

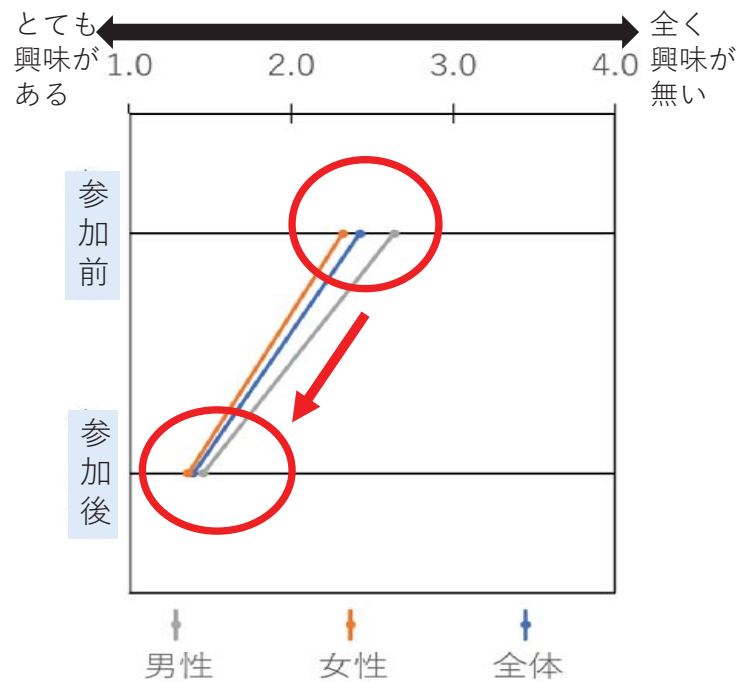


昔の家に対する興味関心の変化

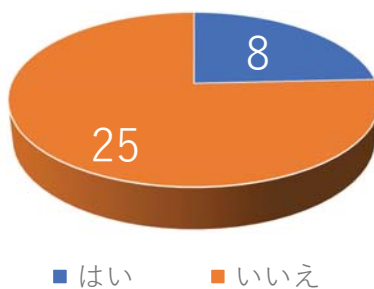
男性も女性も参加する前後で昔の家に対する興味関心が上がっている。

昔の家についての知識が増えたことによるものでは？

アンケート(1) アンケート(2)



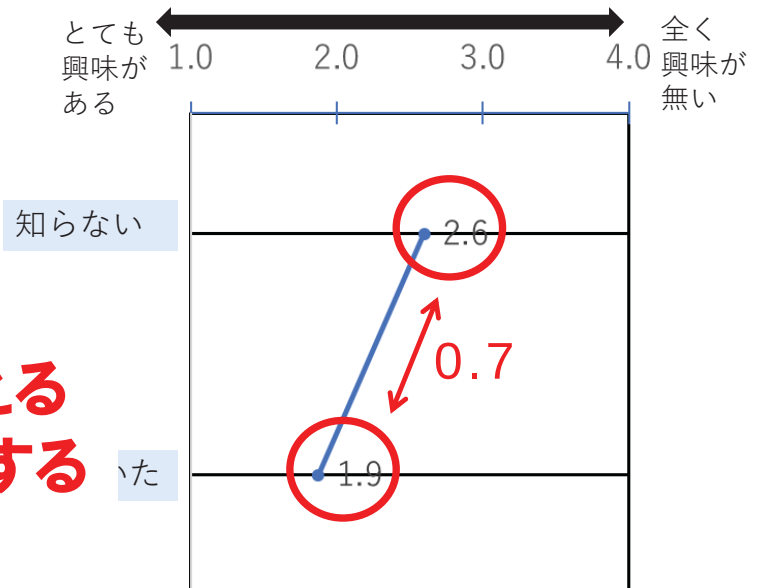
旧小田切家を知っていましたか



活動によって知識が増えることにより、昔の家に関する興味・関心は大きくなる。

アンケート(1) アンケート(2)

事前に旧小田切家住宅を知っていた人と知らない人の、事前の昔の家に対する興味関心の違い

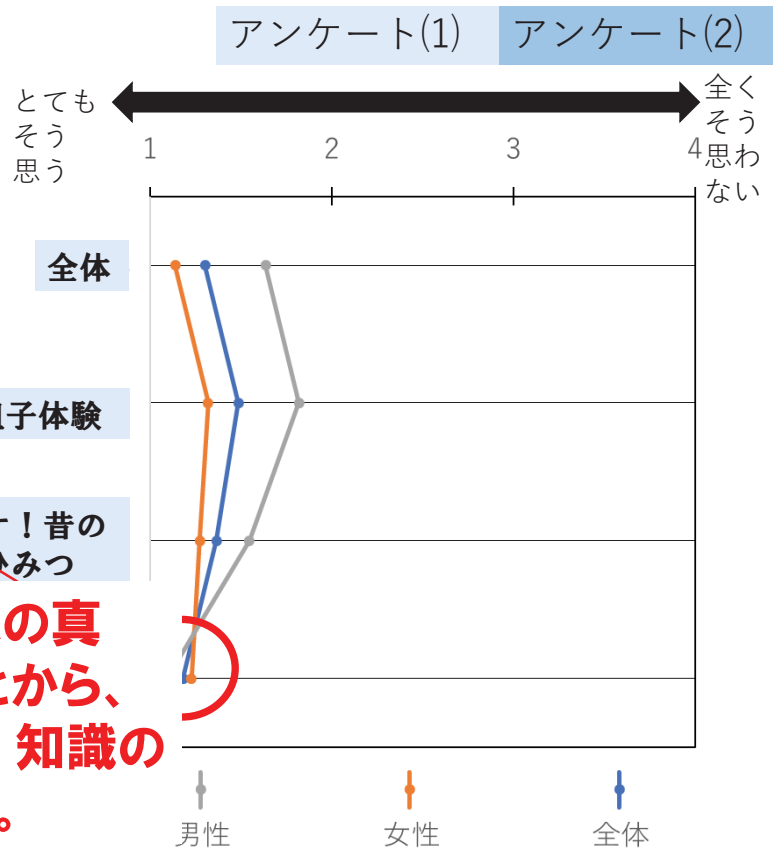


子ども達にとって国や地域の伝統や文化についての理解を深めることのできる内容であると思いますか。

「昔の家の真実」の評点が最も高い

ミッケ！昔の家のひみつ

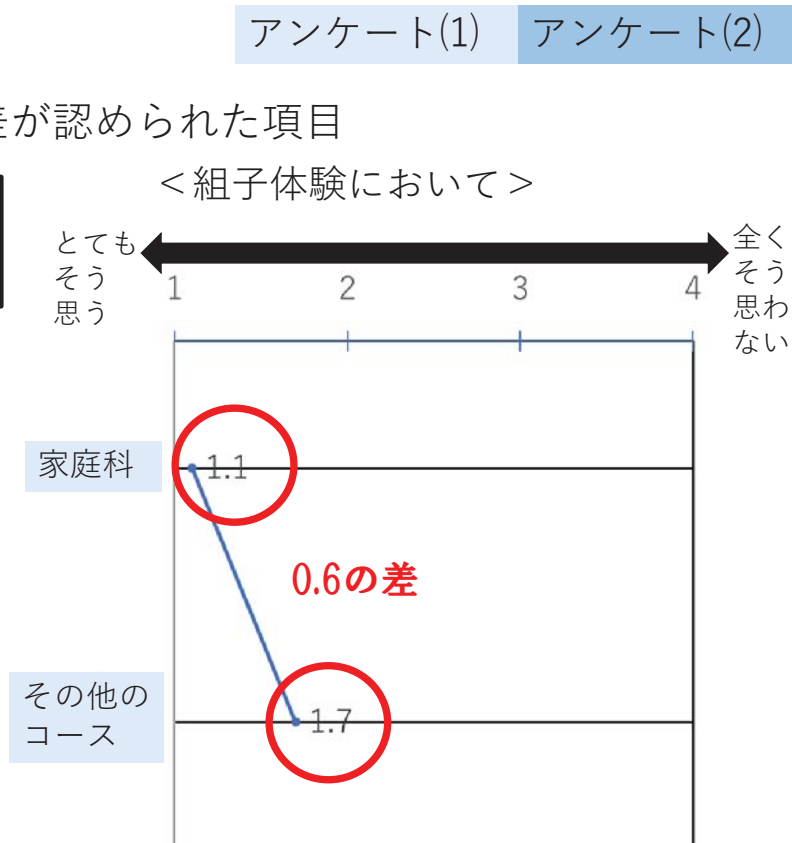
どの項目においても、「昔の家の真実」が最も評点が高かったことから、子どもの学びにつなげるには、知識の定着を図るような活動は必須。



- 家庭科とその他のコースで有意差が認められた項目

子ども達にとって国や地域の伝統や文化についての理解を深めることのできる内容であると思いますか。

家庭科では、実践・体験型の学習活動が行われていることから、他のコースに比べ評価が高くなった。



今回のイベントのような内容はこういった教科と関連付け、どのように活用できると考えますか。

社会

- 2日本の歴史・文化と関連付け(12)
- 4地域への理解を深める(1)
- 5産業の発展(7)

美術(図画工作)

- 1伝統文化を感じた(1)

数学(算数)

- 1算の単位(1)

国語

- 1古典分野(1)
- 2初めて出会う言葉の学びにつなげる(1)

英語

- 1外国人に英語でふるさとについて話す(2)

- 1社会科の歴史と地域を関連付けながら(1)
- 2旧家にまつわる歴史的出来事について時代劇をする(1)
- 3生徒自身がイベントを開催して、地域の人と交流する(1)
- 4自分たちで地域の調査や伝統を調べ発表する(1)

歴史文化を学ぶ活動は、教科横断型の分野として、どんな学びとも結びつけられる新たな可能性。

電の変遷を知り、技術発展を知る(1)。
土組みと活用法(1)

子ども達へのパイロットイベント

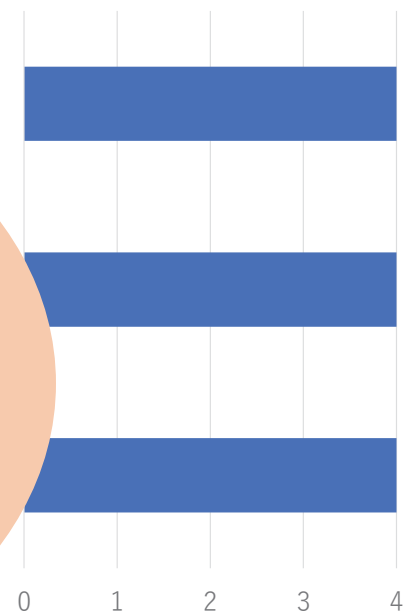
イベントの中
こと

どの活動に対しても、非常に満足度が高い

■ 組子体験 ■ ミッケ!

■ とても楽しかった
■ とてもよく分かった
■ あまり楽しなかった
■ あまりよく分らなかった

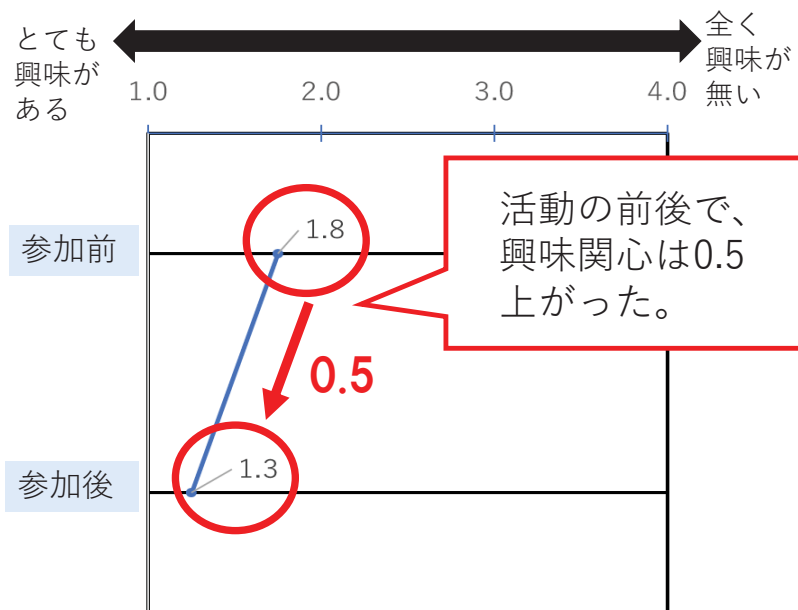
■ まあまあ楽しかった
■ まあまあ分かった
■ 全く楽しなかった
■ 全く分らなかった



<子ども達へのパイロットスタディー>

参加前と参加後の子どもの昔の家に対する興味関心の変化

歴史文化に関わる活動に参加することによって、昔の家に関する興味関心は高まる。



パイロットスタディーで実施したアンケートでの子ども達の自由記述より

肯定的

- ・ 普段はできない体験がたくさんできた。
- ・ 旧小田切家のいろんなことを知れて良かったです。
- ・ 水車が全国初なのが驚いた。
- ・ 昔の暮らしについて考えられて良かったです。

知識の
定着

- ・ 立ち入り禁止のところに入りたかった (2)
- ・ かくれんぼ
- ・ 釘隠しをもっと見つけたい

探究心

意欲

今回検討した活動は、子どもの昔の家に対する興味・関心を高め、知識や理解を促進する内容であった。また、今後子どもたちが主体的に小田切家を訪れ、意欲的に活動したり、探究するきっかけにつながる。

<まとめ>

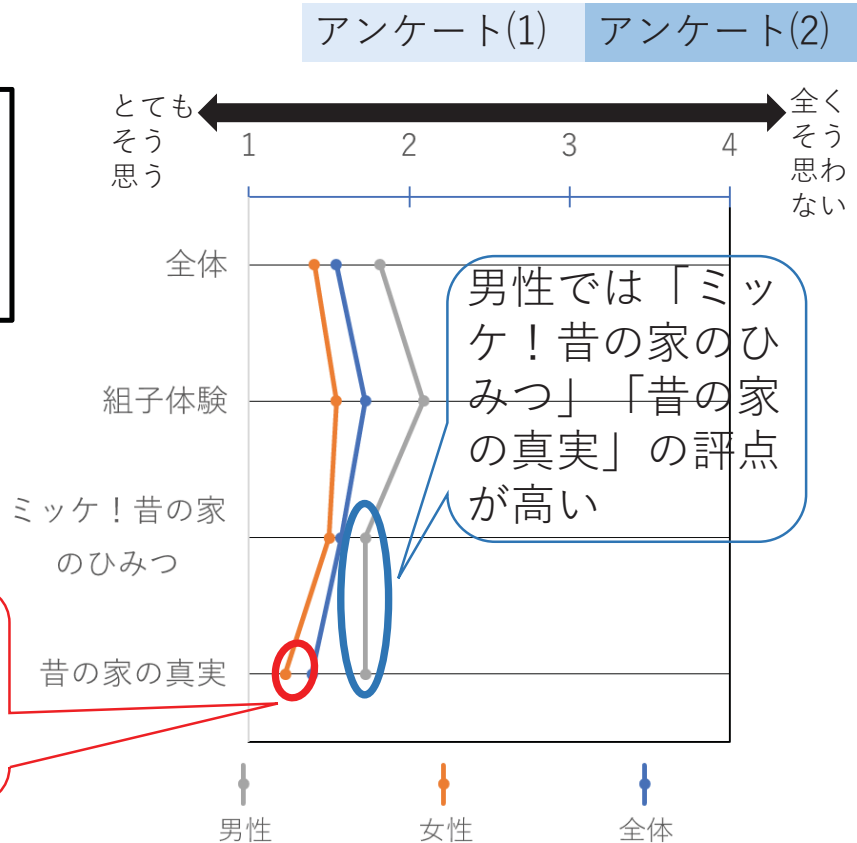
- 歴史文化を学ぶ活動では、歴史文化を身近に感じるための体験的な学習も大切であるが、理解促進を図るには、知識定着のための振り返りの時間も必要。
- 学校現場の様々な教科と連携させることにより、一層の歴史的建造物の活用を図ることが可能。
- 歴史的建造物は観光としての活用も大切であるが、地域の文化財として地域住民が親しむ中で保存活用していくことが必要。
- 特に、その担い手となる子どもや若い世代を交えた交流の場を作り出していく必要。

蔵の街並みキャンパス推進委員会のみなさまには、大変お世話になりました。ありがとうございました。
ご清聴ありがとうございました。



子ども達にとって我が国と郷土への親しみや愛着の情を深めることのできる内容だと思いますか。

女性では「昔の家の真実」の評点が最も高い



子ども達にとって生活文化の知恵や大切さに気づくことのできる内容であると思いますか。

「昔の家の真実」の評点が最も高い

どの項目においても、「昔の家の真実」が最も評点が高かったことから、子どもの学びにつなげるには、知識の定着を図るような活動は必須。

